

## プロパテント時代の人材

今 西 克 己\*



先進国と途上国を含めた大競争時代の中で、我が国では、日本産業のグローバル競争力を復興・強化し、経済・社会を活性化させ、持続的な発展を目指すために国を挙げてプロパテント政策に取り組んでいる。

この最中、今年は注目に値する出来事が二つあった。第一は、職務発明の対価訴訟に相次いで高額な対価の支払いを認めた判決があり、日本産業界に大きな課題を与えたことである。この判決を含む職務発明制度に関する多数の意見・見解が本協会はじめ各種団体や個人によって、企業側立場、研究者側立場から述べられている。本年5月、対価の支払いについて手続きを重視した特許法第35条の改正法案が成立した。この新職務発明制度が来年4月に施行されるにあたり、企業（使用者等）と発明者（従業者等）がともに納得のできる職務発明取扱規程等に関連する諸規程の見直しと整備が急務である。

第二に、本格的な「知的財産報告書」が公表されたことである。本年1月、パイロットモデル試行企業として研究会参加の13社・市場関係者等による試行、評価を踏まえて検討されてきた「知的財産開示指針概要」が公表され、研究会参画の企業を含む多くの企業が知的財産報告書を公表した。その趣旨は、競争力強化と企業価値最大化のために知的財産を積極的に活用して知財経営に戦略的に取り組んでいる企業が、マーケットにおいて適性に評価されることである。大多数の企業は従来から知的財産を経営の柱の一つとして活動をおこなっているものの、事業戦略、研究開発戦略と一体となって取り組んでいる知的財産戦略を、企業秘密として公表に踏み切るとは少ない。しかし、多くの企業が公表することにより、知財経営価値が向上するとともに、自社競争力を高め、グローバル競争に耐え得るイノベーションの創出に注力する効果をも期待できる。

「知」の大競争において、企業が存在感を示し、持続的な発展を図るには、他社に先駆けて創出したオンリーワン技術、仕組み、表現等を織り込んで、しかも他社の追随を許さない知的財産権で固めた製品を市場に送り込むことである。この競争力を有するオンリーワン技術や表現等を生み出す「素」は、創造性豊かな人材によるものであり、人材を育て、総合力を発揮することがプロパテント時代を勝ち抜く上で大きなウエートを占めている。そのために、一人ひとりの創造性を開発し、独創性を発揮できる環境を作り、チーム・グループの中に真のリーダーが存在する、という三要素が不可欠であ

\* 井関農機株式会社 常務取締役 開発製造本部長 Katsumi IMANISHI

## ※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

り、これらの要素を着実に作り上げることが重要となる。

一般的な創造性とは、「何事かを改善し、新しい事を考え出す能力」のことであるが、企業における創造性とは、「世の中になく新しいものや仕組みや方法であり、しかも、世の中で役に立つものであって、それらを造りだす能力」のことをいい、この能力を伸ばすことを創造性開発と呼んでいる。創造性は、特別な人のみが持っている能力ではない。「玉琢かざれば器を成さず」ということわざがあるように、人は生まれながら優れた才能を持っており、その才能を高める努力を払っているか否かによる。

努力をしているが、成果がなかなか出てこない場合には、頭脳の良し悪しという狭い意味でなく、熱い思い、創意工夫、どんなことも恐れない肝っ玉、判断力・決断力等といった人間の総合的な実力を発揮できる脳力を高めること、すなわち脳をよく使う人材に育成する必要がある。その育成手段として、好奇心の強い、思考力の柔軟な若人や経験の浅い人一人ひとりが、考えることや創造を阻害する固定・既成観念の排除を習慣的にするために、早い時期から創造性手法等の実践を通じて創造性を高める方法が有効である。

知的財産は知的創造活動によって生まれるものであり、活動する知的環境が大きく影響する。創造性豊かな知的環境作りとして、場所、建物、設備といった外面的な環境も必要であるが、先ず、自分の意見・思いが自由活発に述べられる環境、個人の意見や提案を大切にしてもらえ環境、新しいことに対して挑戦できその支援がある環境、新しい情報を誰もが共有できる環境、発明者や創作者を優遇し知的財産を重視する環境、新しいことに挑戦した場合の失敗に寛大な環境、といった独創性を発揮できる内面的な環境作りが必要である。

リーダーの地位にある人が、必ずしも真のリーダーというわけではない。現在の自分の置かれている立場や周囲・環境の特性等は、すべて現時点での条件にすぎず、それは単なる出発点でしかない。その地位や権限が何であろうと、周囲に対し本質的な影響を与える土台作りを地道に確実に進め、チームやグループ活動を通じて何らかの変革・革新をもたらすための媒体として、自らの努力で創造的変化を達成する人物こそが真のリーダーである。

内面的環境と外面的環境を最適に融合した知的環境の中で、リーダーを中心とした意欲と情熱に満ち溢れる人材の総合力の発揮により、創造活動が活発になり、優れた成果を生み出すことができる。そのために、真のリーダーの役割は、柔軟な思考能力を持つ若人、経験の浅い人一人ひとりが明確な目標と限りない意欲を持ち、新しい試みにチャレンジできる仕組みや環境を率先して作り、知識と行動力で変革に向けて力強く推進することであると考え。

プロパテント時代では、最後まで成し遂げる粘り強さを持ち、創造力と知識の豊富な人材が、企業の宝であることは勿論のこと日本の宝でもある。